

ワクチン情報文書

インフルエンザ菌b型(Hib)ワクチン: 知っておくべきこと

Many Vaccine Information Statements are available in Japanese and other languages. See www.immunize.org/vis

多くのワクチン情報の説明が、日本語やその他の言語で利用することができます。
www.immunize.org/visを見てください。

1. ワクチン接種を受ける理由は?

Hib(ヒブ)ワクチンはインフルエンザ菌b型(Hib)疾患を予防できます。

インフルエンザ菌b型は、多くのさまざまな種類の感染症を引き起こす可能性があります。通常5歳未満の子供がこれらの感染症に感染しますが、特定の病気にかかった大人も感染する場合があります。Hib菌は、耳の感染症や気管支炎などの軽度の病気を引き起こすこともあれば、血液の感染症などの重度の病気を引き起こすこともあります。重度のHib感染症は「侵襲性Hib感染症」とも呼ばれ、病院での治療が必要になり、時には死に至ることもあります。

Hibワクチンの施行前は、米国の5歳未満の子供の細菌性髄膜炎の第1の原因がHib感染症でした。髄膜炎は、脳と脊髄の内壁に起こる感染症です。脳障害や難聴につながる可能性があります。

Hib感染は以下を引き起こす可能性があります。

- ・肺炎
- ・喉の腫れがひどく、呼吸がしにくい
- ・血液、関節、骨、心臓の被覆の感染症
- ・死亡

2. Hibワクチン

Hibワクチンの接種は通常、3～4回行われます(製品によって異なる)。

乳児は通常、出生後2か月の時点で初回のHibワクチンの接種を受け、生後12～15か月で残りの接種を完了します。

生後12か月～5歳の小児で、すべてのHibワクチンの接種を完了していない場合は、1回以上のHibワクチンの追加接種が必要となる場合があります。

5歳以上の小児および成人は通常、Hibワクチンを接種しませんが、鎌状赤血球症患者など、脾臓が損傷していたり、摘出されている年長の小児または成人は、脾臓摘出手術前、または骨髄移植の後にワクチンを接種することが推奨されます。HIVに感染している5～18歳の小児にも、Hibワクチンの接種が推奨されます。

Hibワクチンは、単独のワクチンとして、または混合ワクチン(複数のワクチンを1回の注射で接種するワクチンの一種)の一部として接種することができます。

Hibワクチンは他のワクチンと同時に接種してもかまいません。

3. 担当の医療従事者にご相談ください

以下のような方がワクチンを受ける場合には、担当するワクチン接種を行う医療従事者にご相談ください。

- ・過去にHibワクチンの接種後にアレルギー反応を起こしたことがある、または重度の生命を脅かすアレルギーがある

場合によっては、担当の医療従事者がHibワクチンの接種を次回の来院まで延期するように判断する場合があります。

風邪などの軽い病気にかかっている場合でも、ワクチン接種を受けることができます。病気が中程度または重度の場合は、回復してからHibワクチンを接種するほうがよいでしょう。

詳しい情報については、担当の医療従事者にお尋ねください。



U.S. Department of
Health and Human Services
Centers for Disease
Control and Prevention

4. ワクチン反応のリスク

- ・ Hibワクチン接種後には、注射した部位の赤み、熱感および腫れや発熱などの反応がみられることがあります。

ワクチン接種を含め、医学的な処置により失神する方もいます。目まいや視力の変化、耳鳴りなどを感じたら、担当医療従事者にお伝えください。

どんな医薬品でもそうであるように、ワクチン接種により重度のアレルギー反応や、その他の重篤な傷害や死亡が起こる可能性はごくわずかにあります。

5. 重度の問題が起きたら？

アレルギー反応は、ワクチン接種を受けたクリニックからの帰宅時に生じることがあります。重度のアレルギー反応の症状(蕁麻疹、顔やのどの腫れ、息苦しさ、速い鼓動、目まい、倦怠感)があった場合は、**9-1-1**に電話し、最寄りの病院を受診してください。

気にかかる他の症状がある場合は、担当の医療従事者にお電話ください。

有害反応は、Vaccine Adverse Event Reporting System (ワクチン有害事象報告システム:VAERS)に報告する必要があります。通常、担当の医療従事者がこの報告書を提出しますが、あなたもご自身で提出することができます。VAERSのウェブサイトにアクセスいただくか www.vaers.hhs.gov、**1-800-822-7967**までお電話ください。VAERSは反応の報告のみを目的としているため、VAERSのスタッフは医学的な助言は行いません。

6. 全米予防接種傷害補償プログラム

National Vaccine Injury Compensation Program (全米予防接種傷害補償プログラム:VICP)は連邦プログラムであり、特定のワクチン接種により傷害を受けた可能性のある方々に補償するため設立されました。ワクチン接種による傷害または死亡の疑いに関する補償請求には提出期限があり、2年という短期間の場合があります。VICPのウェブサイト www.hrsa.gov/vaccinecompensation をご覧になるか、**1-800-338-2382**までお電話いただき、プログラムの詳細および補償請求の方法についてご相談ください。

7. 詳しい情報を知るには？

- ・ 担当の医療従事者にお尋ねください。
- ・ お住まいの地域または州の保健局にお電話ください。
- ・ ワクチンの添付文書および追加情報については、Food and Drug Administration (米国食品医薬品局:FDA)のウェブサイト www.fda.gov/vaccines-blood-biologics/vaccines をご覧ください。
- ・ Centers for Disease Control and Prevention (疾病管理予防センター: CDC)にお問い合わせください。
 - 電話 **1-800-232-4636 (1-800-CDC-INFO)** または
 - CDCのウェブサイト www.cdc.gov/vaccines をご覧ください。

Japanese translation provided by Immunize.org

